

2014年第3四半期の中国電子情報産業の動向について

2014年11月24日

JEITA/JLMC北京事務所 胡 夢雲
(JETRO北京事務所電子情報産業部)

2014年10月27日、中国工業信息化部は、「2014年1-9月電子情報製造業の運営状況」を発表しました。当所ではその概要と2014年第3四半期の中国電子情報産業の輸出入状況、及び固定資産投資状況の発表文書と共に整理し、レポートとしてとりまとめましたので報告します。

【はじめに】

中国経済は新しい情勢へと進展し、構造調整も安定的に進み、産業成長構造転換と格上げの勢いは良好である。2014年1-9月、電子情報産業は相対的に高成長を保持し、9月の付加価値額の増加幅は41の工業系業界の中で第3位、主要な指標の増加幅が上昇した。しかし、現在の国際情勢は複雑で目まぐるしく、国内の「三期叠加」（三つの期間の重なり＝経済成長速度の転換期、②構造改革の陣痛期、③4兆元景気対策の消化期）の圧力の高まりは、中国の電子情報産業における投資、生産、輸出に不利な影響を及ぼし、産業の衰退圧力が依然存在する。

一、概況

（一）製造業の主要な指標の成長率は回復しつつある。1-9月、一定規模以上の電子情報製造業の付加価値額増加幅は前年同期比11.9%で、1-8月を0.7ポイント上回り、工業の平均水準を3.4ポイント上回った。9月の増加率は同16.6%で、工業の平均水準を8.6ポイント上回った。1-9月の販売額は7兆4096億元で、前年同期比10.2%増で1-8月を0.5%上回ったが、前年同期と前年年末をそれぞれ1.0ポイント、0.8ポイント下回った。輸出額は3兆7145億元で、同5.5%増、1-8月を1.0ポイント上回ったが、前年同期を0.1ポイント下回り、前年通年を0.6ポイント上回った。



図 1 2012 年から現在までの工業と電子情報製造業の増加幅比較

(二) 固定資産投資額の増加幅はさらに鈍化 1-9 月、電子情報産業における 500 万元以上の固定資産プロジェクト投資額（完成ベース）は 8624 億円で、前年同期比 10.5%増、増加幅は 1-8 月に比べて 1.1 ポイント下落したが、同期の工業投資額の増加幅を 3 ポイント下回った。電子情報産業における新規固定資産投資額は 3999 億 5000 万円で、前年同期に比べて 11.2%増、増加幅は前年同期に比べて 5.2 ポイント上回り、1-8 月より 0.2 ポイント高かった。1-9 月、電子情報産業の新規着工プロジェクトは 6203 件で、前年同期に比べて 2.4%低減した。そのうち、通信設備、放送、電子部品産業の新規着工プロジェクトはそれぞれ 9.9%減、25%減、10.2%減。電子部品、コンピューター、電子専用機器、情報メカトロニクス業はそれぞれ 3.4%増、3.6%増、3.8%増、7.4%増だった。

(三) 輸出入額の低下幅の収まる傾向が継続。1-9 月、中国の電子情報製品の輸出入総額は 9470 億米ドルで、前年同期比 3.3%減、低減幅は 1-8 月と比べて 1.3 ポイント縮小した。そのうち、輸出額は 5590 億米ドル、前年同期比に比べて 1.8%減で、低減幅は 1-8 月に比べて 1 ポイント縮小し、全国の対外輸出のウエイトは 32.9%だった。輸入額は 3881 億米ドルで、前年同期比 5.5%減、低減幅は 1-8 月に比べて 1.5 ポイント低下し、全国の対外輸出額の 26.5%を占めた。9 月の電子情報製品の輸出入はいずれも増加傾向を呈し、

輸出額は 682 億米ドルで前年同月比 6.3%増、輸入額は 510 億米ドルで同 6.0%増、初期の連続下落傾向を転換させた。

二、主な特徴

(一) 主な業界の増加幅が上昇

通信機器業は高成長を保持。1-9 月、通信機器業の販売額は前年同期比 16.7%増、1-8 月に比べて増加幅は 0.8 ポイント上昇し、産業全体の平均水準を 6.5 ポイント上回った。そのうち、輸出額は 15.8%増で、1-8 月に比べて 2.3 ポイント上昇、内販額は 17.5%増加で、1-8 月に比べて増加幅は 0.6 ポイント低下し、産業全体の平均水準を 2.2 ポイント上回った。通信機器業の販売額は産業全体に占めるウエイトは 18.9%で、産業全体で 2 位、前年同期比を 1.2 ポイント上回った。1-9 月の産業全体の携帯電話生産台数は 12 億 9300 万台で、前年同期比 11.1%増。移動体通信基地局の通信路の数は 2 億 7282 万で、同 136.1%増、SPC 交換機は 2242 万本で、同 20.2%増だった。

家庭用 AV 機器業は回復を保持している。1-9 月の家庭用 AV 機器業の販売額は 5548 億元、増加幅は 4.6%、1-8 月に比べて横ばいで、前年同期より 6.2 ポイント低下した。そのうち、輸出額は 2631 億元で、前年同期比 9.1%増、増加幅は 1-8 月に比べて 0.8 ポイント上昇し、今年最高の増加幅に達した。内販額は小幅回復を維持し、1-9 月は 2916 億元で前年同期比 0.8%増、1-8 月に比べて 0.6 ポイント低下、前年同期に比べて 26.4 ポイント低下した。1-9 月、産業全体のカラーテレビ生産台数は 1 億 1371 万 3000 台、増加幅は 11%、うち液晶テレビは 1 億 568 万 8000 台、前年同期比 24.9%減、産業全体に占める比率は 92.9%だった。CRT テレビは前年同期比 45.7%減少、PDP テレビは同 71.6%減少した。

電子部品・コンポーネント業は小幅上昇。1-9 月の電子コンポーネント業の販売額は 1 兆 2149 億元、前年同期比 10.0%増で 1-8 月を 0.5%上回ったが、産業全体の平均水準を 0.2%下回った。輸出額は 5200 億元で、同 3.3%増、1-8 月を 1.2 ポイント上回り、業界全体の平均水準を 2.2 ポイント下回った。電子部品業の販売額と輸出額はそれぞれ 1 兆 897 億元、6667 億元で、それぞれ前年同期比 9.1%増、3.6%増。増加幅は 1-8 月よりそれぞれ 0.5 ポイント、1.0 ポイント高く、それぞれ産業全体の平均水準を 1.1 ポイント、1.9 ポイント下回った。1-9 月、集積回路生産量は 755.4 億個、前年同期比 9%増だった。

トランジスタ分割部品の生産量は 3943 億 5000 万個で、同 7.4%増だった。電子コンポーネントは 2 兆 8174 億 3000 万個で 6.7%増加した。

コンピューター業は低位な伸びを呈した。1-9 月、コンピューター業の販売額は 1 兆 6405 億元、増加幅は 3.5%、1-8 月に比べて 0.5 ポイント上回り、産業平均水準よりも 6.7 ポイント低く、前年同期より 2.1 ポイント低下した。9 月末時点の産業全体に占めるウエイトは 22.1%で、前年同期より 2 ポイント低下した。産業全体の成長に対する寄与率は 8.2%で、1-8 月に比べて 1 ポイント上昇し、前年同期に比べて 4.5 ポイント低下した。輸出額は 1 兆 2260 億元で、前年同期比 0.9%増、増加幅は 1-8 月に比べて 0.5 ポイント高かった。1-9 月、産業全体のパーソナルコンピューターの生産台数は 2 億 4410 万 4000 台で、前年同期比 2.2%増、そのうちノート PC の増加幅は 2.8%で全体に占める比率は 78.5%、デジタルカメラの生産台数は 1845 万 3000 台で、減少幅は 49.6%だった。

ソフトウェア業の収益の増加は安定しつつ緩慢傾向にある。1-9 月、中国のソフトウェア業、IT サービス業の収益は 2 兆 6815 億元、増加幅は 20.6%で、増加幅は 1-8 月に比べて 0.8 ポイント低下し、前年同期より 3 ポイント低下した。9 月のソフトウェア業務（完成ベース）の収益は 3568 億元で、前年同月比 14.9%増、増加幅は 8 月に比べて 6.9 ポイント低下した。1-9 月、データ処理、ストレージサービスは高成長を保持し、収益は 4785 億元で、前年同期比 24.6%増、増加幅は産業全体でトップ、産業全体の平均水準を 4 ポイント上回り、産業全体に占めるウエイトは 17.8%に達し、前年同期に比べて 0.5 ポイント上回った。集積回路設計業の収益は 757 億元で前年同期比 20.7%増、増加幅は前年同期に比べて 1.9 ポイント上昇した。組み込みシステムの成長が顕著に鈍化しており、1-9 月の収益は 4563 億元で前年同期比 18.6%増、増加幅は業界全体を 2 ポイント下回り、前年同期より 5.1 ポイント低下した。ソフトウェア製品、情報システム統合サービス、IT コンサルティングサービスの増加幅は緩慢し、収益（完成ベース）はそれぞれ 8314 億元、5551 億元、2845 億元で、増加幅はそれぞれ 19.7%、20.2%、20.4%、増加幅は前年同期よりも 3.8 ポイント、2.7 ポイント、4 ポイント低かった。

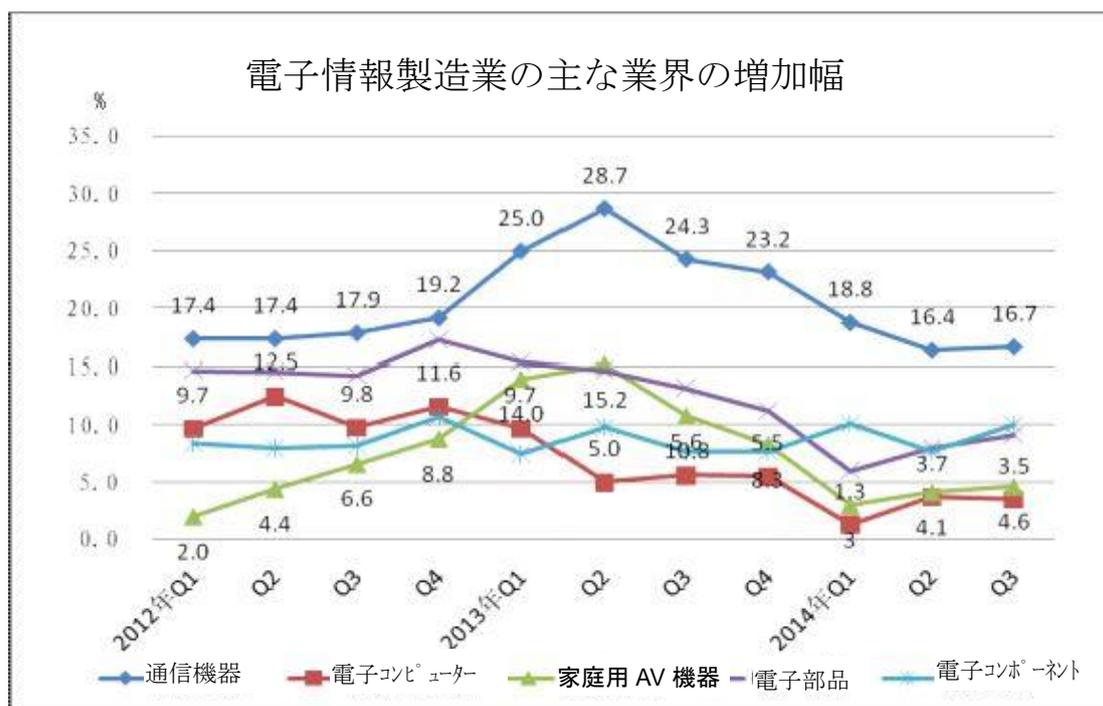


図 2 2012 年から現在までの主な業界の販売額増加幅の比較

(二) 内販は小幅回復、輸出は底打ち後回復

1-9 月、一定規模以上の電子情報製造業の内販額は 3 兆 6951 億円で前年同期に比べて 15.3%増、増加幅は 1-8 月に比べて 0.2 ポイント低く、産業全体の平均を 5.1 ポイント上回った。輸出額は 3 兆 7145 億円で、前年同期比 5.5%増、1-8 月に比べて 1 ポイント上昇した。そのうち、内販額増加幅は前年通年、前年同期に比べてそれぞれ 3.1 ポイント、2.6 ポイント低下した。輸出額増加幅は前年通年より 0.6 ポイント高く、前年同期に比べて 0.1 ポイント低かった。

2014年1-9月の電子情報製品輸出入状況

【掲載時間：2014年10月27日】【出所：運行監測協調局】

一、 輸出入の概況

2014年1-9月、中国の電子情報製品の輸出入総額は9470億米ドルで、前年同期比3.3%減、低減幅は1-8月と比べて1.3ポイント縮小した。そのうち、輸出額は5590億米ドル、前年同期比に比べて1.8%減で、低減幅は1-8月に比べて1ポイント縮小し、全国の対外輸出のウエイトは32.9%だった。輸入額は3881億米ドルで、前年同期比5.5%減、低減幅は1-8月に比べて1.5ポイント低下し、全国の対外輸出額の26.5%を占めた。9月の電子情報製品の輸出入はいずれも増加傾向を呈し、輸出額は682億米ドルで前年同月比6.3%増、輸入額は510億米ドルで同6.0%増、初期の下落傾向を転換させた。

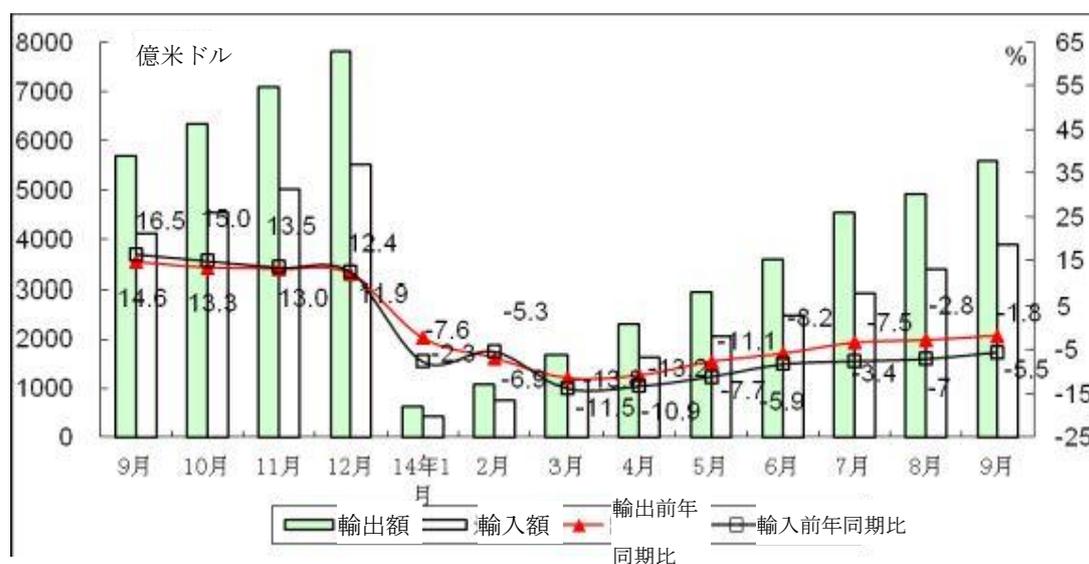


図1 2013年以降の電子情報製品の累計輸出入額

二、 輸出入の産業構造

輸出に関して、電子部品の減少幅が大きく、輸出額は980億米ドルで、前年同期比22.1%減、その他の類別はいずれも増加傾向を呈した。具体的には、コンピューター(1607億米ドル)、通信装置(1292億米ドル、3.9%)、家庭用電子機器(786億米ドル、4.9%)、電子コンポーネント(569億米ドル、7.9%)、電子計器・メーター(242億米ドル、8.0%)、

放送設備（63億米ドル、23.3%）、電子材料（51億米ドル、19.7%）。主要製品の輸出額は減少が顕著で、輸出額トップ5位は順に、携帯電話（713億米ドル、9.6%）、ノートPC（553億米ドル、-27.9%）、集積回路（456億米ドル、-35.6%）、液晶ディスプレイ（239億米ドル、-12.0%）、携帯電話用部品（213億米ドル、-15.8%）。

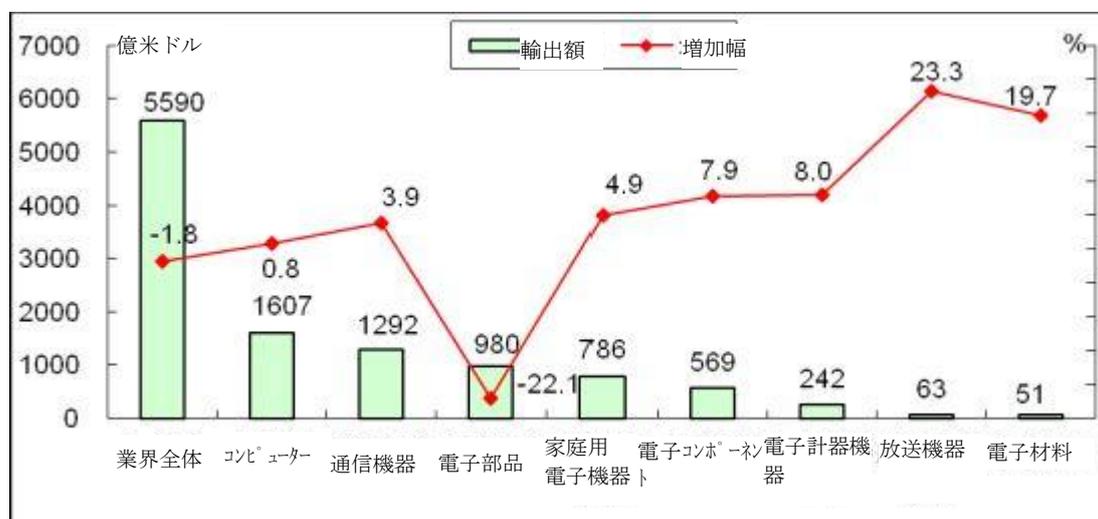


図2 2014年1-9月の電子情報製品の各業界の輸出状況比較

輸入に関して、通信機器、家庭用電子機器、電子部品・コンポーネントは減少傾向を呈し、輸入額はそれぞれ322億米ドル、149億米ドル、373億米ドル、2132億米ドルで、減少幅はそれぞれ9.2%、3.6%、4.7%、9.4%だった。その他の類別は増加を保持し、電子計器機器（364億米ドル、14.1%増）、コンピューター（445億米ドル、0.2%増）、電子部品（61億米ドル、5.5%増）、放送設備（34億米ドル、9.31%増）。主要製品の輸入額は減少傾向を呈し、輸入額トップ5位は順に、集積回路（1577億米ドル、-10.0%）、液晶ディスプレイ（327億米ドル、-12.7%）、携帯電話用部品（210億米ドル、-13.6%）、ハードディスクドライブ（118億米ドル、-2.1%）、印刷回路（95億米ドル、-5.6%）。

三、輸出入貿易方式の構造

輸出に関して、一般貿易による輸出額は1274億米ドルで前年同期比17.4%増、増加幅は平均水準を19.2ポイント上回り、全体のウェイトは22.8%で、前年同期に比べて3.7ポイント上昇した。加工貿易による輸出額は3563億米ドルで前年同期比1.3%減だった。うち、進料加工貿易（原材料を有償で輸入して加工した後、製品を有償で輸出する形態）による輸出額は3342億米ドルで前年同期比0.5%減だった。来料加工貿易（無償供与された輸入原材料を加工して全量を輸出し、委託者は受託者に加工賃のみを支払う形態）による輸出額は221億米ドルで、同12.0%減だった。

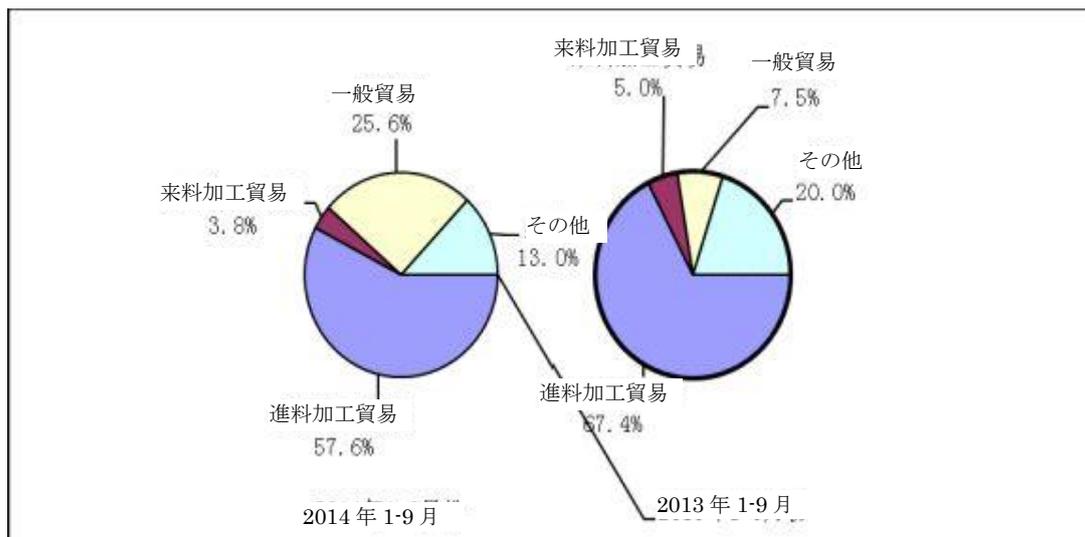


図3 2014年と2013年の1-9月の電子情報製品の主要な貿易方式の輸出シェア比較

輸入に関して、一般貿易による輸入額は1030億米ドルで前年同期比15.1%増で、増加幅は平均水準を20.6ポイント上回った。加工貿易による輸入額は1889億米ドルで、同1.9%減だった。うち、進料加工貿易による輸入額は254億米ドルで、2.4%増。

四、 輸出入経済類型構造

輸出に関して、内資企業の輸出額は1527億米ドルで、前年同期比5.7%減、減少幅は平均水準を3.9ポイント上回った。うち、民营企业による輸出の減少は特に顕著で、輸出額は1087億米ドル、前年同期比11.0%減だった。国有企業と集団所有制企業の輸出は増加を保持し、輸出額はそれぞれ326億米ドル(6.7%増)、114億米ドル(22.9%増)だった。外資の三資企業(合弁企業、合作企業、独資企業)の輸出額は4063億米ドルで、前年同期比0.2%減、うち、外商独資企業、中外合弁企業、中外合作企業の輸出額はそれぞれ3044億米ドル(0.5%減)、984億米ドル(1.1%減)、35億米ドル(24.2%減)だった。

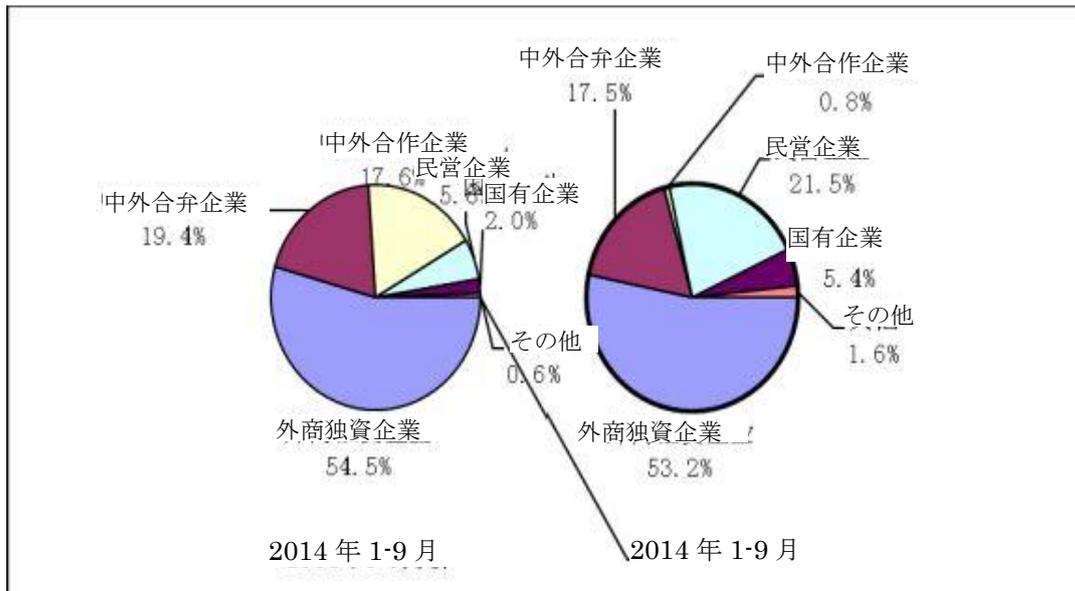


図4 2014年と2013年の1-9月の電子情報製品の各種企業の輸出額シェア比較

輸入に関して、内資企業の輸入額は1129億米ドルで、前年同期比14.5%減、うち、民間企業の輸入額は869億米ドルで、同16.3%減、減少幅はトップだった。三資企業の輸入額は2751億米ドルで、前年同期比1.2%減と小幅減少、外商独資企業の輸入額は2019億米ドルで、同1.6%減だった。中外合弁企業の輸入額は726億米ドルで、0.1%増だった。中外合作企業の輸入額は6億米ドルで18.1%減だった。

五、 輸出入相手地域の構造

輸出に関して、主な貿易相手を見ると、香港向けは大幅に減少し、輸出額は1437億米ドル（前年同期比19.7%減）、米国向けは引き続き増加し、輸出額は1036億米ドル（同5.5%増）、日本向けは371億米ドル（3.7%増）、韓国向けは305億米ドル（0.8%増）、オランダ向けは254億米ドル（6.4%）だった。ベトナム、ロシア、フィリピン等の一部の新興市場国向けの輸出は高成長を保ち、増加幅はそれぞれ前年同期比15.1%増、12.4%増、25.5%増だった。欧州市場向けの輸出は依然増加傾向を呈し、輸出額は964億米ドル、前年同期比7.9%増だった。

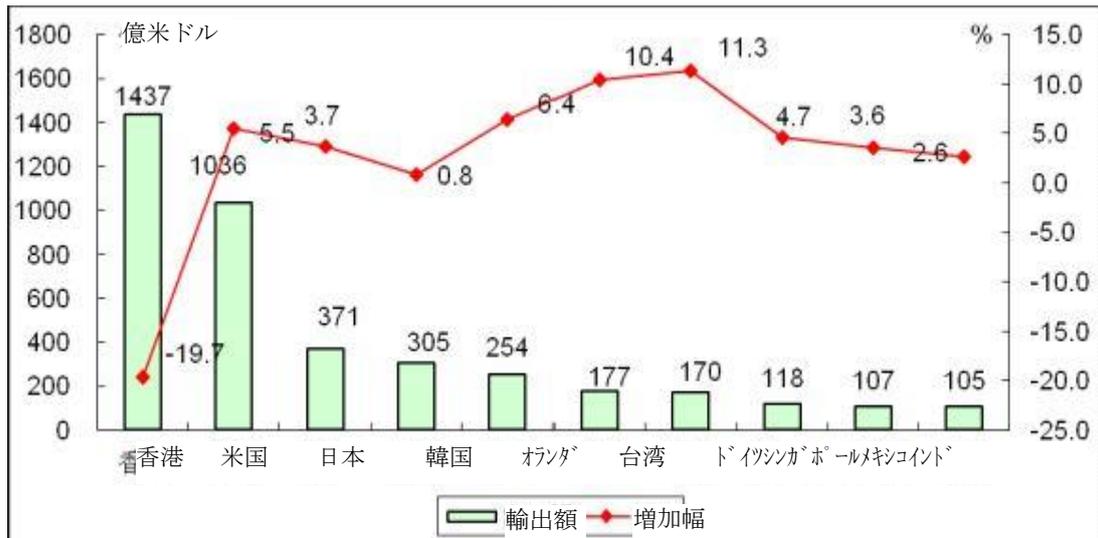


図5 2014年1-9月の中国の電子情報製品の輸出額トップ10の国・地域

輸入に関して、再輸入は840億米ドルで前年同期比12.2%減、その5大輸入元はそれぞれ、台湾(765億米ドル、-8.5%)、韓国(748億米ドル、0.3%)、日本(395億米ドル、-1.7%)、マレーシア(262億米ドル、-9.0%)、米国(196億米ドル、-8.6%)。

六、輸出入相手の地域構造

輸出に関して、トップ5位の省区市は、広東省(2258億米ドル、-11.98%)、江蘇省(1069億米ドル、3.2%)、上海市(663億米ドル、-2.8%)、重慶市(218億米ドル、30.3%)、浙江省(203億米ドル、9.4%)。安徽省、陝西省、新疆ウイグル自治区等の中部・西部の省区市の輸出は高成長を呈し、増加幅はそれぞれ前年同期比86.2%増、79.7%増、111.5%増だった。

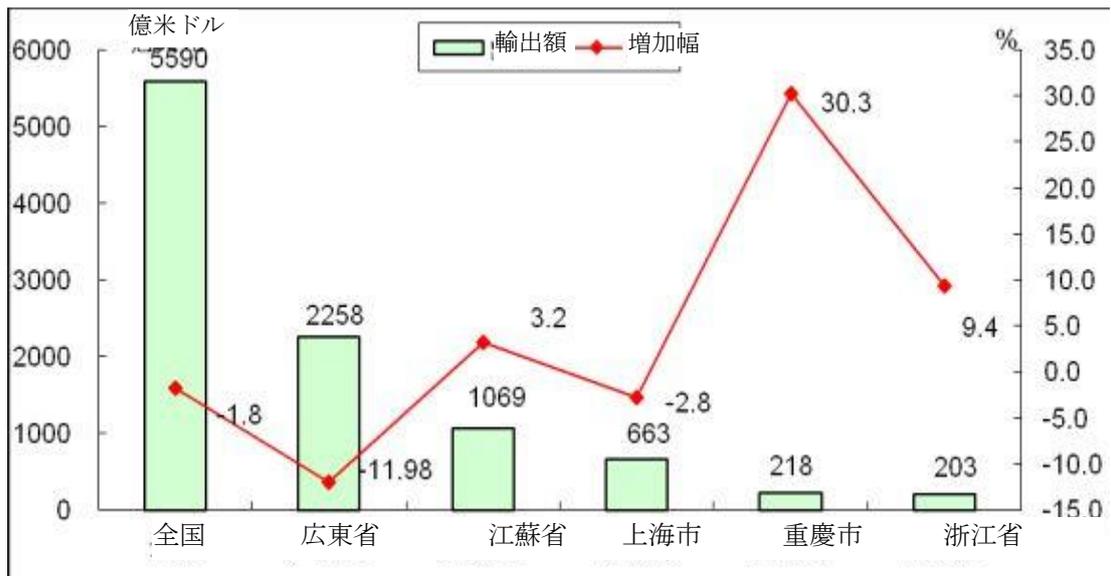


図6 2014年1-9月の電子情報製品の輸出額トップ5位の省区市

輸入に関して、トップ5位は、広東省（1495億米ドル、-19.1%）、江蘇省（696億米ドル、1.9%増）、上海市（519億米ドル、-4.9%）、天津市（151億米ドル、-11.8%）、山東省（149億米ドル、22.9%）。陝西省、安徽省、江西省、雲南省、寧夏回族自治区、青海省は輸入が急増し、増加幅はいずれも100%を超えた。

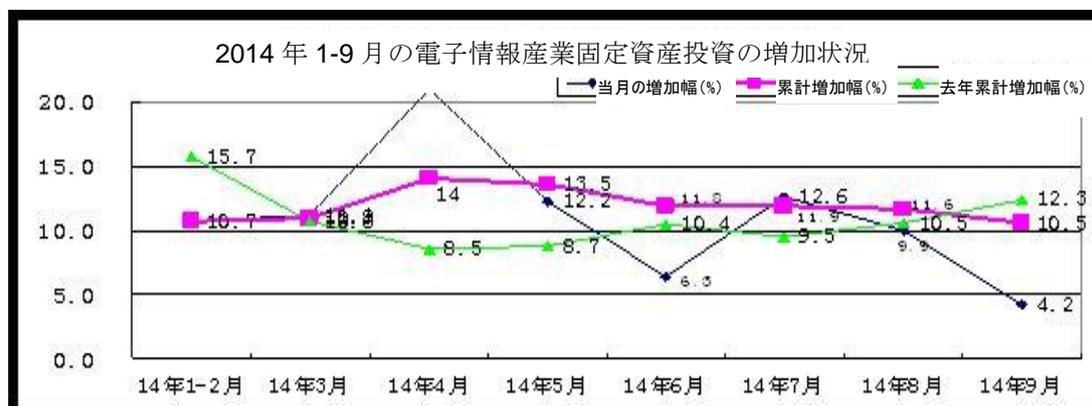
2014年1-9月の電子情報産業の固定資産投資状況

【掲載時間：2014年10月24日】【出所：運行監測協調局】

2014年1-9月、電子情報産業の固定資産投資は引き続き緩慢に移行し、電子部品業向け投資は下落を続けた。家庭用AV機器と情報材料は依然下落し、電子コンポーネント、コンピューター、通信業の投資は増加幅が緩慢化、新規着工プロジェクトは依然不足気味である。主な特徴は以下のとおり。

一、投資の増加幅はさらに緩慢化、新規固定資産プロジェクトが回復

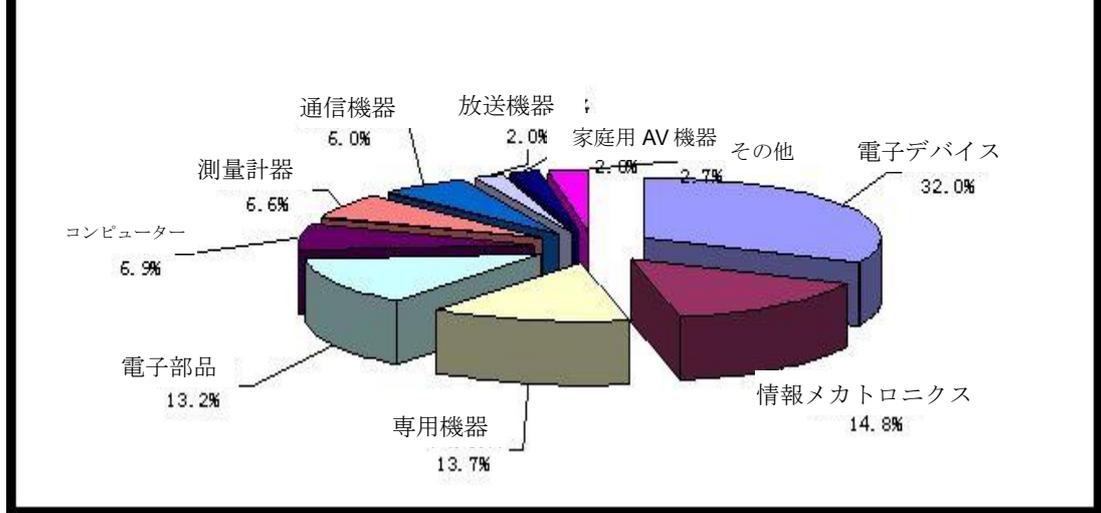
1-9月、電子情報産業における500万元以上の固定資産プロジェクト投資額(完成ベース)は8624億円で、前年同期比10.5%増、増加幅は1-8月に比べて1.1ポイント下落したが、同期の工業投資額の増加幅を3ポイント上回った。9月の固定資産投資額(完成ベース)は1224億円で、前年同月比4.2%増、増加幅は今年で単月最低水準だった。1-9月、電子情報産業における新規固定資産投資額は3999億5000万円で、前年同期に比べて11.2%増、増加幅は前年同期に比べて5.2ポイント上回り、1-8月より0.2ポイント高かった。



二、新規着工プロジェクトが引き続き減少、多くの分野の投資が活発さを欠く

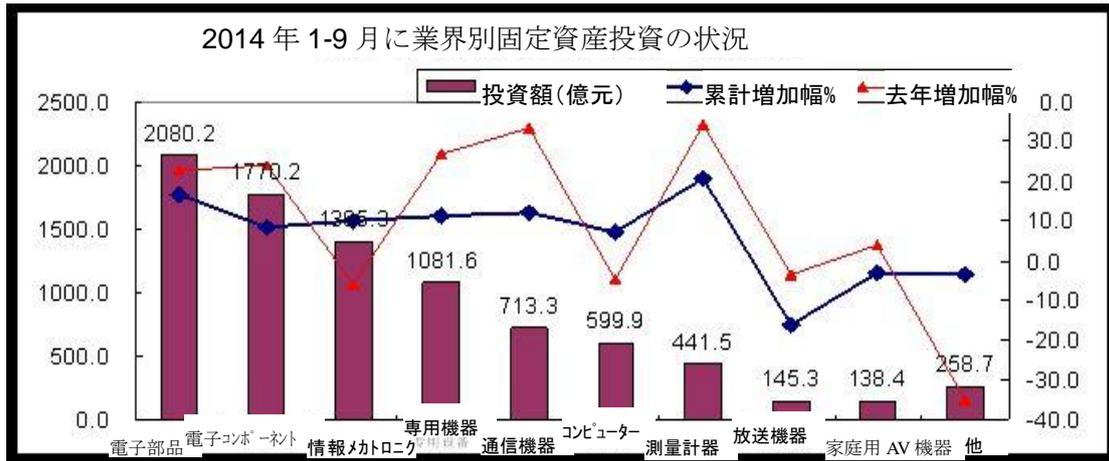
1-9月、電子情報産業の新規着工プロジェクトは6203件で、前年同期に比べて2.4%低減した。そのうち、通信設備、放送、電子部品産業の新規着工プロジェクトはそれぞれ9.9%減、25%減、10.2%減。電子部品、コンピューター、電子専用機器、情報メカトロニクス業はそれぞれ3.4%増、3.6%増、3.8%増、7.4%増だった。

2014年1-9月に投資された新規着工プロジェクト分布



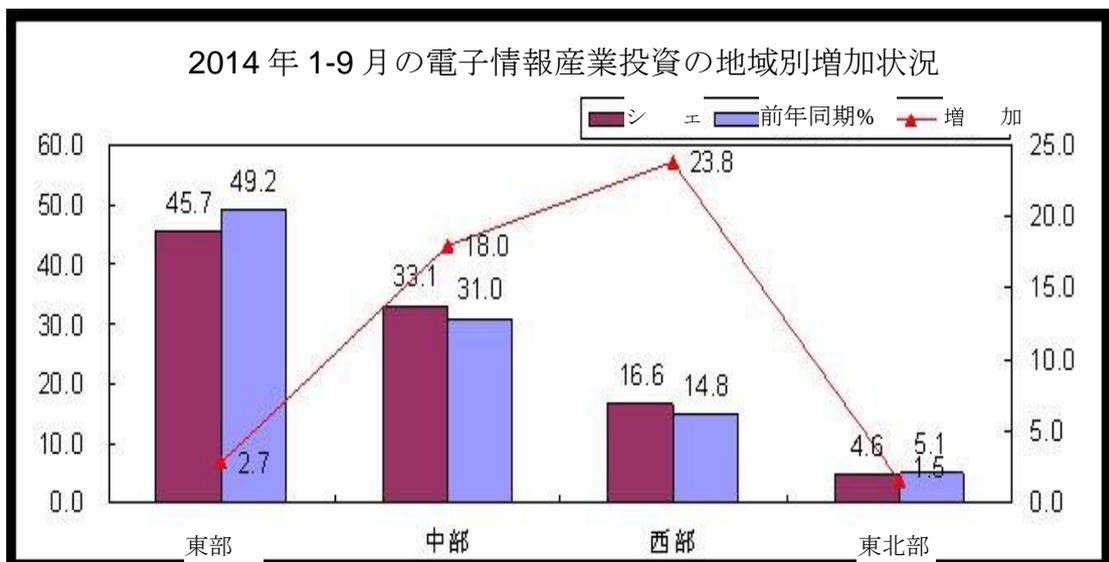
三、電子部品・コンポーネント、コンピューター等の業界の投資が下落続き、家庭用AV機器、情報材料等の分野も依然下落

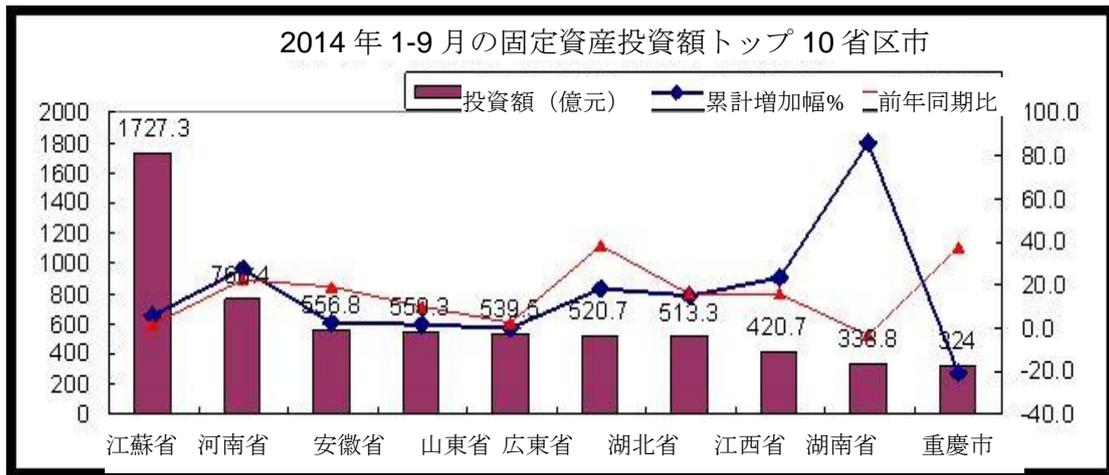
1-9月、電子部品業の投資額（完成ベース）は2080億円で、前年同期比16.7%増、増加幅は産業全体を6.2ポイント上回ったが、6か月連続で下落し、1-8月に比べて3.6ポイント下落した。うち、集積回路分野の投資額（完成ベース）は489億円で、同15.5%増、1-8月に比べて4.1ポイント下落した。光電子部品の投資額（完成ベース）は1426億4000万円で19.8%増、1-8月に比べて3ポイント下落した。ディスクリート半導体の投資額（完成ベース）は79億5000万円で1.9%増、1-8月に比べて9.7ポイント下落した。電子コンポーネント及びコンピューター業の増加幅は下落が続き、投資額（完成ベース）はそれぞれ1770億円、600億円で、前年同期に比べてそれぞれ8.2%増、7.2%増、増加幅は1-8月に比べて1.4ポイント、1ポイント下落した。通信機器業の投資額（完成ベース）は713億円で、前年同期比12.1%増、伸び幅は1-7月と横ばいで、前年同期に比べて21.2ポイント低かった。家庭用AV機器と情報材料分野の投資は引き続き下落し、減少幅はそれぞれ3.1%、4.8%だった。ただ、前年同期に比べて減少幅はそれぞれ4.3ポイント、3.6ポイント縮小した。太陽光発電関連業の投資はマイナス成長からプラス成長に転じ、1-9月の増加幅は7.6%で、増加幅は1-8月に比べて1.6ポイント上昇した。



四、西部地域の投資増加幅が大きく下落、東部地域は引き続き低成長

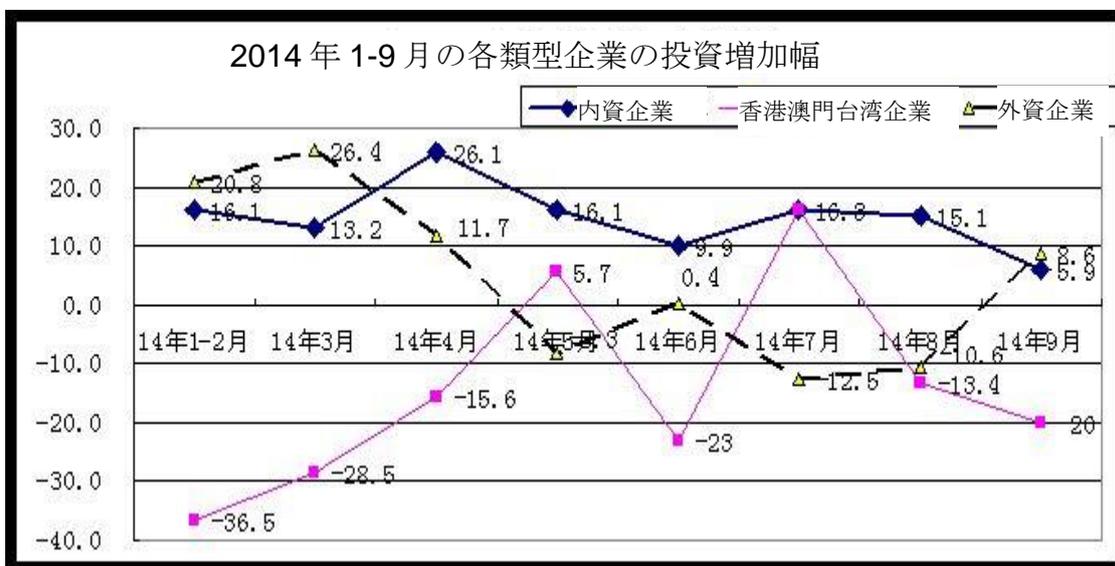
1-9月、西部地域の投資額（完成ベース）は1428億元で、前年同期比23.8%、増加幅は1-8月に比べて7.8ポイント下落し、前年同期よりも2.4ポイント低かった。重慶市と陝西省は増加が顕著で、それぞれ85.5%増、31.4%増だった。東部地域における投資額（完成ベース）は3943億元で、前年同期比2.7%減、全国の平均水準よりも7.8ポイント低く、減少幅は1-8月に比べて0.6ポイント縮小した。中部地域の投資額（完成ベース）は2852億元（18%増）で、前年同期比3.4ポイント低かった。そのうち安徽省と湖北省の投資額の増加幅は前年同期に比べて20ポイント前後下落した。東北3省（遼寧省、吉林省、黒龍江省）の投資額（完成ベース）は401億元で、前年同期比1.5%増、増加幅は前年同期に比べて16.8ポイント低かった。





五、外商投資が下落を続ける局面が転換し、内資企業の投資は安定しつつ緩慢化した

1-9月、外商投資企業の累計投資額（完成ベース）は946億元で、前年同期比3.7%増、増加幅は1-8月に比べて0.9ポイント上昇した。内資企業の投資額（完成ベース）は7163億元で、前年同期に比べて14.2%増、増加幅は1-8月に比べて3.4ポイント低下した。そのうち民営企業と有限（責任）会社の投資額（完成ベース）はそれぞれ3077億元、2440億元で、前年同期比はそれぞれ20%増、9.3%増、国有企業は24%増だった。香港・澳門・台湾企業のは引き続き下落し、投資額（完成ベース）は515億元で、前年同期比16.7%減だった。



(注：文中で使用したデータの出所は国家統計局)

以上

〈参考〉中国語原文：

<http://www.miit.gov.cn/n11293472/n11293832/n11294132/n12858462/16185182.html>

<http://www.miit.gov.cn/n11293472/n11293832/n11294132/n12858462/16185191.html>

<http://www.miit.gov.cn/n11293472/n11293832/n11294132/n12858462/16181671.html>